



「もっとやらせたい」という気持ち…

- ◎ ふだんは勉強することが嫌いな子供が、頑張って学習課題を仕上げると、私たち大人はとても嬉しくなります。そして、「もっとやらせれば、もっとできるようになるかもしれない」「もっと難しい課題をやらせて、もっと力を伸ばしてあげたい」と思い、さっそく課題の量を上乘せしたり、次の難易度のステップの課題を追加させたりすることがあります。子供の成長を願う気持ちはよくわかりますが、実はここが誰もが陥りやすい“落とし穴”です。
- ◎ 「頑張って頂上までやっとたどり着いて、ホッとしたと思ったら、まだその先に頂上があった…」。これでは気持ちが落ち込み、意欲も失くしてしまうかもしれません。学力を高めたり、何かをできるようになったりするためには、一度にたくさん頑張らせて心身を消耗させるよりは、少しずつでも努力や意欲を継続させるほうが、「力」として蓄えられます。

具体的な手立てとして（特に勉強することを嫌がっているケースでは）

- ◇あらかじめ学習する分量や範囲をはっきり決めておくこと。（ゴールを決めておくこと）どれくらい頑張ったらよいか見通しがあったほうが、意欲をもちやすい。
- ◇余力があっても、時間が余っても、はじめに決めたとおりに終わりにすること。
- ◇「できた!」「やった!」という達成感で締めくくることが。
- ◇「ぼく、もっとできるよ」と、余力を残したところで終ると、次回につながりやすい。

※「こころのお便り」は、情緒通級の現役教諭が原稿を書き、深大出版で編集しています。

子育てに悩む保護者の方、児童を理解したい先生等どなたでもプリントしてお使いいただけます。